

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載
 【部門区分】第1部門第2区分
 【発行日】平成19年12月27日(2007.12.27)

【公開番号】特開2006-122556(P2006-122556A)
 【公開日】平成18年5月18日(2006.5.18)
 【年通号数】公開・登録公報2006-019
 【出願番号】特願2004-317727(P2004-317727)
 【国際特許分類】

A 6 3 F 5/04 (2006.01)

G 0 6 T 1/00 (2006.01)

G 0 7 D 5/02 (2006.01)

【F I】

A 6 3 F 5/04 5 1 2 J

A 6 3 F 5/04 5 1 2 Z

G 0 6 T 1/00 4 3 0 J

G 0 7 D 5/02 1 0 4

【手続補正書】

【提出日】平成19年11月1日(2007.11.1)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

投入される遊技媒体を遊技機内へ案内する案内通路と、前記案内通路に対向して設けられ発光素子と受光素子とからなる検出部とを具備する遊技媒体選別装置であって、

前記受光素子が受光する光の光量を検出する光量検出手段と、

前記発光素子が発光する光量と前記光量検出手段により検出される前記受光素子が受光する光量との対応関係が得られたとき、遊技媒体の検出と判別する判別手段と、

前記発光素子が発光する光量を切り替える光量切替制御手段と、を備え、

該光量切替制御手段は、前記発光素子が発光する光量をランダムに切り替えることを特徴とする遊技媒体選別装置。

【請求項2】

前記判別手段は、前記発光素子が発光する光量と対応関係を有しない光量の光を前記受光素子が受光したとき、異常と判別してこれを検知することを特徴とする請求項1に記載の遊技媒体選別装置。

【請求項3】

前記判別手段が前記異常を検知したとき、異常報知又は遊技停止の異常処理を実行する異常処理手段を更に備えることを特徴とする請求項2に記載の遊技媒体選別装置。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0008

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0008】

投入される遊技媒体を遊技機内へ案内する案内通路と、前記案内通路に対向して設けられ発光素子と受光素子とからなる検出部とを具備する遊技媒体選別装置であって、前記受

光素子が受光する光の光量を検出する光量検出手段と、前記発光素子が発光する光量と前記光量検出手段により検出される前記受光素子が受光する光量との対応関係が得られたとき、遊技媒体の検出と判別する判別手段と、前記発光素子が発光する光量を切り替える光量切替制御手段と、を備え、該光量切替制御手段は、前記発光素子が発光する光量をランダムに切り替えることを特徴とする。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0009

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0010

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正 5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0011

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0011】

請求項 2 に記載の発明は、請求項 1 に記載の遊技媒体選別装置であって、前記判別手段は、前記発光素子が発光する光量と対応関係を有しない光量の光を前記受光素子が受光したとき、異常と判別してこれを検知することを特徴とする。

【手続補正 6】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0012

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0012】

請求項 3 に記載の発明は、請求項 2 に記載の遊技媒体選別装置であって、前記判別手段が前記異常を検知したとき、異常報知又は遊技停止の異常処理を実行する異常処理手段を更に備えることを特徴とする。

【手続補正 7】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0013

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0013】

請求項 1 に記載の遊技媒体選別装置によれば、判別手段は発光素子が発光する光量と受光素子が受光した光の光量との対応関係が得られたとき、遊技媒体を検出したと判別する。これにより、例えば偽の反射光を受光素子に対して与えるような不正行為が行われたとしても、発光量と受光量との対応関係が得られなければ遊技媒体を検出したものとは判別しないので、かかる不正行為を行うことは困難になる。また、光量切替制御手段は、受光素子が発光する光量を切り替える。これにより、例えば偽の反射光を受光素子に対して与えるような不正行為が行われたとしても、発光量との対応関係を得ることは極めて難しくなるため、かかる不正行為の完遂を防止する。さらに、光量切替制御手段は、発光素子が発光する光量をランダムに切り替える。これにより、例えば偽の反射光を受光素子に対して与えるような不正行為が行われたとしても、発光量との対応関係を得ることは極めて難しくなるため、かかる不正行為の完遂を防止する。

【手続補正 8】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0014

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正 9】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0015

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正 10】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0016

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0016】

請求項 2 に記載の遊技媒体選別装置によれば、判別手段は、発光素子が発光する光量と対応関係を有しない光量の光を受光素子が受光したとき、異常と判別してこれを検知する。これにより、例えば偽の反射光を受光素子に対して与えるような不正行為を迅速、かつ確実に検知する。

【手続補正 11】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0017

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0017】

請求項 3 に記載の遊技媒体選別装置によれば、異常処理手段は、判別手段が異常を検知したとき、異常報知または遊技停止の異常処理を実行する。これにより、例えば偽の反射光を受光素子に対して与えるような不正行為の完遂を防止する。